The Shifting Demographics of Student Population in Australia's Adult Education : Under the Name of Multiculturalism and Internationalization of Higher Education

TAJIMA Misako

Seibi Gakuen Junior and Senior High School

Abstract

One of the two purposes of this paper is to analyze the ways in which social, political and economic changes in a broader context in Australia have affected the local fields of adult education, making special reference to the development of the Australian Government policies. The other aim is to critically examine how and why the government policy development has occurred in Australia. Adult education in this paper indicates the following three fields : the Adult and Community Education (ACE), the Adult Migrant English Program (AMEP) and the English Language Intensive Courses for Overseas Students (ELICOS).

This paper consists of two parts. The first part describes the shifting demographics of student population in the ACE and AMEP fields as recent phenomena influenced by the national-level changes. The part also investigates what effects these shifting demographics have made on the curriculums used in the two, mentioning some characteristics of "genre-based pedagogy" and its weaknesses. Following on from this description and investigation, the Australian Government immigrant policies are evaluated in terms of multiculturalism and economic rationalism.

The second part deals with the shifting demographics of student population in the ELICOS field, using some data obtained from my interview with an English teacher who has worked at a language school in Australia for over ten years. The part also discusses the reasons why the system of accreditation was introduced in the field. Finally, the Australian Government educational policies are evaluated from the perspective of the internationalization of higher education.

オーストラリアにおける成人教育受講者の変遷

――「多文化主義」と「高等教育の国際化」の名の下で――[1)]

田　嶋　美砂子
星美学園中学高等学校

は　じ　め　に

この十数年間でオーストラリアが経験したさまざまな社会的変容は，教育の世界にも大きな影響を与えている．逆の見方をすれば，オーストラリアの教育制度や内容がどのような変遷を辿ってきたのかという問題は，この国の歴史的，政治的，経済的要素と複雑な相関関係にあるということである（Baynham, 1991 in Hammond et al., 1992）．従って，オーストラリアで起こっている国家規模の，あるいは，ときに世界規模の変容に言及することなく，教育分野における動向を議論することはできない．

この論文の目的は，オーストラリア政府がこれまで打ち出してきた移民政策，教育政策の一部に焦点を置きながら，この国の社会的，政治的，経済的変容が成人教育にどのような影響を与えてきたのかを分析することである．また，政府によって採択された政策がどのような時代的背景の中で変化を遂げていったのかという問題を批判的に検証することも目的としたい．なお，この論文では，成人教育の場として，3 つの分野を採り上げる．その 3 つとは，the Adult and Community Education（ACE，成人コミュニティ教育），the Adult Migrant English Program（AMEP，成人移民のための英語プログラム），そして，the English Language Intensive Courses for Overseas Students（ELICOS，留学生のための英語集中コース）である．

この論文は，2 部から成り立っている．第 1 部では，国家規模の社会的変容に影響された現象の 1 つとして，ACE と AMEP を受講する人々の変化を扱う．また，ACE, AMEP それぞれにおける受講者の顔ぶれを変化させたと思われる政府の移民政策を「多文化主義」，「経済合理主義」という観点から批判的に分析したい．その際，AMEP で現在，使用されている公認カリキュラムの特徴についても言及するつもりである．第 2 部では，ELICOS を受講する留学生の変化を扱い，この分野で設置認可制度が導入されるようになった経緯を検証する．さらに，ELICOS に関しては，私が 2005 年 8 月に実施したオーストラリア在住のある現職英語教員に対するインタビューの内容にも触れる予定である．最後に，第 1 部と同様，

1）この論文で引用した英語の文献及び言及した英語の名称はすべて，田嶋が日本語に翻訳している．

ELICOS の受講者に変化を及ぼしたと考えられる政府の教育政策を「高等教育の国際化」という観点から批判的に議論したい．

1. ACE と AMEP

1–1. ACE における受講者の変化

オーストラリアの成人教育の歴史は，19 世紀中頃にまで遡ることができる．現在と同様，その当時も，初等教育を受けていない成人やリテラシー（読み書き能力）[2)]が不足している成人を対象としていたが，各州が管轄する公的かつ組織的な教育制度となったのは，ここ数十年の出来事である（the New South Wales（NSW）Government Department of Education and Training（DET），2008）．現在，成人教育の一翼を担っている ACE は，リテラシー講座から情報技術講座，そして，経営・商業講座に至るまで，学習者の必要性に応じた多種多様なコースを提供しており，彼（女）らの日常生活における不便や（再）就職する際の不利益を削減することを主な目的としている．

このような ACE が近年，直面している大きな変化の 1 つは，Non-English-Speaking Background（NESB，日常的に英語を使用しない環境で生まれ，育った経歴）を持つ受講者が増加したことである．例えば，NSW（ニューサウスウェールズ）州が提供するリテラシー講座に参加した NESB の受講者は，1984 年には全体の約 20% であったのに対し（Rustomji & Dent, 1986 in Hammond et al., 1992），1990 年には約 30% に増加した（Hammond et al., 1992）．さらに，2005 年にはその割合が 60% を超えている（the NSW Board of Adult and Community Education, 2006）．これらの数値から，「NESB の人々は，成人リテラシー教育がターゲットとしなければならない主たるグループの 1 つになった」（Holland, 1992 in Hammond et al., 1992, p. 45）と考えることができる．

ACE における受講者のこのような変化は，多文化かつ多言語志向の講座を提供することのできるカリキュラムを作り出そうとする動きを促進させた（Hammond et al., 1992）．これは，実際には NESB の受講者が数多く存在するにも拘らず，ACE の講座（特に，リテラシーを教授する講座）が英語を母語とする人々を念頭に置いたものとなっていたことが要因の 1 つであった．Christie et al.（1991 in Hammond et al., 1992）が指摘するように，アングロ・サクソン系中流階級の人々のために考案された英語教授法をその他の受講者にそのまま適応

2）literacy（リテラシー）は，literacy practices（Baynham, 1995 in Pennycook, 2001），social literacies（Gee, 1996 in Pennycook, 2001），multiliteracies（Cope & Kalantzis, 2000；New London Group, 1996 in Pennycook, 2001），literacies as social practices（Pennycook, 2001）などの表記からもわかるように，単なる「読み書き能力」以上のものであると捉える研究者が多い．しかし，この論文は，「リテラシーとは何か」を主題としているわけではないため，ここでは，「読み書き能力」という日本語訳に留めた．

することは問題である．ACE では，NESB の受講者が増加したことにより，それまで使用されてきたカリキュラムを見直すよい機会を得たといえる．

1–2．AMEP における受講者の変化

ACE と同様，AMEP においても，受講者の変化を見ることができる．AMEP は，1948 年に開始された成人の移民のための英語教育である．このプログラムは，英語を母語としない移民を対象としているため，当然のことながら，参加する受講者はすべて，NESB の人々である．しかし，同じ NESB であっても，彼（女）らの出身地や母語は，ここ数十年間で大きく変化してきている．例えば，1950 年代，1960 年代に AMEP を受講した人々の主な出身国は，オランダ，ドイツ，イタリア，ギリシャ，トルコ，旧ユーゴスラビアであった（the Department of Immigration and Multicultural and Indigenous Affairs（DIMIA）[3)]，2005 a）．このことから，当時はヨーロッパ諸国を出自とする移民が数多く参加していたことがわかる．

これに対し，現在では，非ヨーロッパ圏から移り住んできた人々の受講が増えてきている．DIMIA（2005 b）の統計によると，2003 年から 2004 年にかけ，AMEP に参加した移民の出身国上位 5 つは，中国（19.1％），ベトナム（9.1％），スーダン（7.3％），イラク（6.4％），レバノン（4.0％）である．さらに，この期間の受講者の母語上位 5 つは，マンダリン語（15.2％），アラビア語（14.3％），ベトナム語（9.1％），セルビア語（3.4％），タイ語（3.1％）であった（DIMIA, 2005 c）．これらの数値から，現在，AMEP を受講する移民の多くが非ヨーロッパ圏出身であるという事実と同時に，彼（女）らの母語の大部分ではローマ字が使用されていないこともわかる．Kightley（1990 in Hammond et al., 1992）は，母語でローマ字を使用しない地域を出自とすることが学習者の英語におけるリテラシーの発達に特殊な影響を与えると述べている．Kightley のこの主張は，現在の AMEP の教員にはそれまでとは異なった資質が要求されているという事実を示唆しているのかもしれない．

1–3．移民政策と「多文化主義」，「経済合理主義」

それでは，ACE と AMEP という 2 つの成人教育の分野で，上述したような変化は，なぜ起こったのであろうか．ここでは，オーストラリア政府が採択した移民政策の変遷に焦点を

3）the Department of Immigration and Multicultural and Indigenous Affairs（移民・多文化・先住民関係省）は，the Department of Immigration and Multicultural Affairs（移民・多文化関係省）を経て，2007 年 1 月に，the Department of Immigration and Citizenship（移民・市民権省）へと名称が変更された．「多文化」という文言が名称から消えたことは，機会を改め，議論しなければならない事柄である．特に，この変更直前の 2006 年 9 月に，市民権取得試験導入に関する計画が政府によって発表されたことを考え合わせると，非常に興味深い問題である．というのも，市民権取得試験では，「英語力」と「（アングロ系文化を中心とする）オーストラリアの価値観に関する知識」が問われ，この試験に合格しなければ，移民は市民権を得ることができなくなったからである．なお，この論文では，変更以前のデータを用いたため，出典を旧名称で表記している．最新の情報については，〈http : //www.immi.gov.au/media/fact–sheets/index.htm〉を参照されたい．

あてながら，「多文化主義」，「経済合理主義」という観点から議論していきたい．

1970 年代前半に白豪主義が完全撤廃されるまで，オーストラリアに移住してくる人々のほとんどが白人であった．しかし，それ以降は，非白人，特にアジアからの移住者の数が増加している．例えば，1982 年から 1983 年にかけ，アジアから移り住んできた人々は，移民全体の 36% に上り，この時期に初めてアジア人が最も高い割合を占めることとなった（Collins, 1991）．この現象は現在も進行中である．2001 年から 2002 年にかけ，オーストラリアに移住してきた人々の出身国上位 2 ヶ国は，ニュージーランド（17.6%）と英国（9.8%）であるが，それに続く国々は，中国（7.5%），南アフリカ（6.4%），インド（5.7%），インドネシア（4.7%），フィリピン（3.2%）となっている（DIMIA, 2003）．「地域」という視点からこの数値を見てみると，アジア（東南アジア，北東アジア，南アジア）地域からの移住者が全体の 38.7% を占めていることになる（DIMIA, 2003）．このことから，オーストラリア政府が「racist laws（人種差別的法律）」（Collins, 1991, p. 9）から「non-discriminatory（非差別主義の）」（DIMIA, 2002）移民政策へと方向転換したことで，ACE や AMEP などの成人教育においても，受講者に変化が見られるようになったといえる．

しかし，オーストラリアがさまざまな地域から広く移民を受け入れ始めたことは，この国が人種差別主義を「真に」払拭したことを意味しているのであろうか．オーストラリア政府が白豪主義を撤廃し，「多文化主義」を促進することになった本当の要因を，NESB の移民が置かれた現状とともに考えてみると，残念ながら，その答えは必ずしも肯定的ではない．

第一に，白豪主義を取り下げたのは，オーストラリア政府が文化的多様性を自ら求め，さまざまな民族の受け入れを積極的に希望したわけではないからである．実際のところ，白豪主義完全撤廃の裏には，1960 年代頃から，英国やその他のヨーロッパ諸国出身の移民を充分に望めなくなったという背景があった．つまり，オーストラリア国内の労働力不足を補い，経済状態を安定させるために，非白人かつ NESB の人々を受け入れざるを得なくなったのである．Collins（1991）は，この点について，次のように述べている．

> 移民を求める網は，しぶしぶであったが，拡大していくこととなった．まず北ヨーロッパからの「より洗練された移民」，その次に南ヨーロッパ，中東，そして，1980 年代初頭にインドシナ系が最大の割合を占めるまで，その網は拡大していった．（p. 10）

第二に，オーストラリア政府がその後の方向性を「多文化主義」に求めたことも非常に政治的で，白豪主義完全撤廃の裏にある背景とほぼ同じような側面を持っていたことは否定できない．つまり，さまざまな地域から広く移民を受け入れ始めた本当の理由が労働力の確保にあったのと同様，「多文化主義」の導入も「同化政策」よりは国家の利益を得られると判断されたことが要因であった（関根，1997）．Vasta（1996）が主張するように，「オースト

ラリアの多文化主義は，同化政策の失敗によって採用された」（p. 47）のである．

確かに「多文化主義」は，それぞれの民族の文化的アイデンティティを維持し，さまざまな場面での機会均等を保証するために促進されている（関根，1997）．しかし，その一方で，「多文化主義」が不平等という概念の上に成り立つ「経済合理主義」を基盤としていることも事実である（Vasta, 1996）．この観点から考えてみると，オーストラリアでは，「多文化主義」という名の下で，民族間の不平等も進行しているという見方ができるのではなかろうか．例えば，英語を話すことのできる移民がオーストラリア生まれの国民とほぼ同じ職業を得る傾向にあるのに対し，NESB の移民は，技術を要しない肉体労働，すなわち，「dirty jobs（汚れ仕事）」（Collins, 1991, p. 12）を任されることが多い．その結果，先住民を除くと，NESB の移民が最も収入の低い階層を構成しているのである（Collins, 1991）．NESB の移民は，オーストラリア生まれの国民や英語を話すことのできる移民が「請け負いたくない」と考える仕事を引き受けざるを得ない状況に陥っているといえる．

さらに，このような不平等な階層構造は，AMEP 用に作成された公認カリキュラムである the Certificate of Spoken and Written English（CSWE）によって永続され，再生産されていると，自戒を込め，指摘する研究者もいる（eg. Hyland, 2004）．それは，CSWE が genre-based pedagogy（ジャンルに基づいた教授法）[4] と呼ばれる言語（英語）教授法を採用しており，移民がオーストラリアにとって「有益な労働力」となるよう，期待されていることが推測できるカリキュラムだからである．

genre（ジャンル）とは，オーストラリアを発祥の地とする言語（英語）教育の専門用語で，「話者が私たちの文化の一員として従事する，段階的かつ目的志向の活動」（Martin, 1985）と定義される．つまり，genre-based pedagogy を推奨する研究者たちの認識は，どのような社会にも共通する言語活動（例えば，買い物や就職のための面接試験など）があるが，その目的を達成させるために選ばれる方法は，文化によって異なるため，言語（英語）教育の場でその文化特有の genre とそこで実践される言語活動の段取りを教授する必要があるということである（Burns, Joyce & Gollin, 1996）．従って，彼（女）らの教育の意図は，英語を第 2 言語として学ぶ人々が英語圏で社会生活を送る際に，文化の違いによる不都合を感じるような場面を回避することにある．

確かに日常生活におけるさまざまな場面や職場などの genre に焦点をあて，英語を教授する genre-based pedagogy は，NESB の移民の英語力を向上させると同時に，彼（女）らがオ

4）genre-based pedagogy は，英国の言語学者 Michael Halliday（1925 – ）が提唱した systemic functional linguistics（体系機能言語学）及び systemic functional grammar（体系機能文法）が基盤となっている．systemic functional linguistics（grammar）は，言語の社会的機能を重視した点で，従来の traditional grammar（伝統文法）と大きく異なっており，応用言語学や言語（英語）教授法の分野に多大な貢献をもたらした．Halliday がオーストラリアに渡り，シドニー大学の言語学部創設に尽力したことから，systemic functional linguistics（grammar）は，特にシドニーで広く行き渡っている．

ーストラリア社会で成功していくことに貢献するかもしれない（Christie, 1989；Cope & Kalantzis, 1993 in Hyon, 1996）．しかし，その一方で，この genre-based pedagogy が不均衡な権力構造に変化を与えたり，社会的な不平等を疑問視したりする機会を持たないということも指摘されている（Benesch, 2001 in Hyland, 2004）．Hyland（2004）は，この点について，次のように主張する．

> genre を教えることにより，私たちは，学習者を権力者側へと「適応」させているかもしれないが，それは，権力を保持している支配者層の言説と，彼（女）らが構築し，維持している社会的関係を単に再生産しているに過ぎないのかもしれない．（p. 18）

AMEP を通じ，genre について「appropriate（適切な）」[5]知識を得た NESB の移民は，「多文化主義」という名の下で，真に平等な機会を享受しているといえるのであろうか．それとも，彼（女）らは，社会的かつ経済的な不平等が確実に存在する支配・被支配の関係を今後も受け入れていかなければならないのであろうか．この問題に関しては，批判的な視点を持ちながら，引き続き，議論していく必要があるように思われる．

2．ELICOS

2–1．ELICOS における受講者の変化

ELICOS は，ここ 20 年程の間にオーストラリアで広く認知されるようになった留学生のための英語教授プログラムの総称である．現在，小規模な私塾から高校留学を目指す高校生のための中等教育準備学校，そして，大規模な大学付属の語学学校や職業教育学校に至るまで，約 150 の教育機関が実にさまざまなプログラムを用意している（ELICOS Australia, 2008）．さらに，後半で再び言及するが，ELICOS を提供するすべての教育機関は，教員，カリキュラム，クラスサイズなどの面で，この国唯一の団体である the National ELICOS Accreditation Scheme（NEAS，国立 ELICOS 認可機構）の認可を受けている点が特徴的である（ELICOS Australia, 2008）．

上述のような ELICOS を提供する英語教育機関が近年，直面している最大の変化の 1 つは，オーストラリアの大学への入学を希望する留学生が増加していることである．もちろん，現在でも，日常生活や職場における英語力の向上を目指す学生はいるため，「一般英語」や「ビジネス英語」などのコースを設けている学校は複数，存在する．しかし，大学や

5）Norton（2000）のように，「適切であること」は，「誰にとっての『適切』なのか」と問いかける研究者もいる．鳥飼（2006）は，Norton のこのような問いを「学習者の対象言語は，英語を学んでいる者としては英語となりますが，母語話者と同じような言語使用を学習者に要求するのか，という疑問です」（p. 141）と説明している．

大学院レベルで学びたいと考える留学生が以前よりも増したことにより，特に大学付属の語学学校では，それに対応するための，すなわち，academic English（学問に必要となる英語）を教授するためのコースを増設するようになった．話をより具体的にするため，ここからは，オーストラリア在住のある英語教員へのインタビューから明らかになったことを織り交ぜながら，議論していきたい．

2005 年 8 月，私は Insearch（インサーチ）と呼ばれる University of Technology, Sydney（UTS，シドニー工科大学）付属の語学学校に勤務している教員（以下，V とする）にインタビューを試みた．V は 1990 年代前半から Insearch で教えており，その 10 年を超える勤務期間中に，英語教員として経験した大きな変化について，語ってくれた．V によると，1990 年代半ばまで，Insearch のほとんどの授業は，日常的な英会話能力を身につけたいと願う海外からの学生や旅行者を対象にしていたという．しかし，1995 年辺りから，「大学で学位を取得すること」を目的とする留学生の獲得へと経営方針を転換させていく．V のことばを借りれば，UTS の入学条件を英語力の面で満たしていない留学生に，academic English を教えることが，Insearch にとって「新しい大きな市場」となったのである．

この裏には，オーストラリアにおける留学生全体の数が急激に上昇したという背景がある．Smart & Ang（1996）によると，1987 年に full-fee の（学費を全額支払う）留学生は約 7,000 人であったのに対し，1995 年には約 8 万人へと急増したという．驚くべきことであるが，オーストラリアは 10 年足らずの間に，以前の 10 倍以上の留学生を受け入れたことになる．再び，V のことばを借りれば，この時期を境に，留学生を対象とした英語教育や高等教育がこの国の主たる「輸出産業」の一部となったと表現することができるであろう．

2–2. 教育政策と「高等教育の国際化」

それでは，オーストラリアが海外からの留学生の受け入れを急激に拡大したのは，なぜであろうか．その理由を探っていくと，ACE や AMEP のときと同様，ここでも，「オーストラリアの教育に関わる問題は，この国の経済的要素と決して切り離すことができない」（Smyth, 1996, p. 41）という現実が浮き彫りになってくる．

1980 年代初頭，オーストラリアの貿易業績は，深刻に悪化する．その局面を何とか乗り切ろうと，政府は 1980 年代半ばに，教育予算を大幅に削減した（Smart & Ang, 1996）．高等教育機関側からすれば，それまで主な収入源となっていた政府からの助成金が大きく減額されたことになる．国公立大学の場合（オーストラリアの大学のほとんどは，国公立なのであるが），国民や永住権保有者から徴収する学費は非常に少額であるため，新たな歳入を捻出するためには，full-fee の留学生の数を増やす以外に方法はなかったのである．

しかしながら，留学生の存在は，各高等教育機関の財政を潤すに留まらなかった．現在はすでに解散しているが，the Australian International Education Foundation（AIEF）Council

（1997）という団体は，海外からの留学生が増加することの利点を次のように述べている．

・オーストラリアの教育と職業訓練はそれ自体，重要な輸出産業であり（1996 年度の利益は 3 億ドル），この国の経済成長に貢献している．
・留学生からの歳入の 56% は学費以外のところで産み出されている（例として，旅行, 家賃, 生活費など）. さらに, かつての Bureau of Immigration, Multicultural and Population Research（BIMPR）との共同研究によると，留学生はオーストラリア国内の雇用供給を増加させている（Baker et al., 1996）.
・その他にも，ビザ申請料や入学審査料，旅行産業への歳入，教育・職業訓練事業団体との共同ビジネスへの歳入，そして，長い目で見れば，出身国に帰国したかつての留学生がオーストラリアの製品やサービスを輸入することで産み出される歳入が見込まれる．

これらの記述からは，オーストラリアが留学生を大量に受け入れることにより，大学などの高等教育機関のみならず，国の経済そのものも豊かになるという事実に対し，政府は充分，自覚的であったことがわかる．

さらに，前述したように，オーストラリア政府は 1990 年，NEAS を設置し，ELICOS を提供する学校とそこで使用されるカリキュラムの認可制度を導入する（Aardvark's English Forum, 2005）．これにより，オーストラリアの英語教育機関がある一定以上の水準を保てるようになったということを考えれば，この制度は留学生にとって非常に良心的であるといえよう．しかし，その一方で，認可制度が確立された背景には，自国の利益損失を懸念するオーストラリア政府の思惑もあったことは，否定できない．

認可制度導入の直前，私立の語学学校の多くが倒産し，学生から徴収した学費を損失するという事件が起こった．政府はこのことで，留学生市場におけるオーストラリアの国際的な信用が落ちることを懸念し，英語教育機関の認可制度を盛り込んだ the Education Services for Overseas Students（ESOS）Act という法律を制定したのである（the Western Australian Technology and Industry Advisory Council, 2000）. この動きに対し, PhillipsKPA and LifeLong Learning Associates（2005, p. 33）は，「信頼できる，質の高い教育と職業訓練を提供するプロバイダーとしての国際的な評判を促進するために，ESOS Act は制定された」と述べている．逆の見方をすれば，英語教育機関や高等教育機関の質が落ち，市場における他国からの信頼を失えば，full-fee の留学生を確保することが難しくなり，結果として，留学生からの歳入は激減するということをオーストラリア政府は充分，認識していたということになる．

さて，政府は，上述のような経緯で盛んになった留学生の受け入れを「高等教育の国際化」と名付けている（Smart & Ang, 1996）．この表現からは，政府が自国の英語教育や高等教育を大きな「輸出産業」と捉えている側面は見えてこない．しかし，実際のところ，「高

等教育の国際化」という概念には，留学生がオーストラリア経済を潤す単なる customer（顧客）で終わってしまう可能性も含まれている．例えば，Insearch では，留学生が大幅に増加した際，事務所の看板には customer services[6]の文字が躍ったそうである．また，留学生を一定数，確保するため，留学生用の入学基準を年々下げている大学も存在すると聞く．入学基準を下げれば，それに応じ，入学後の単位取得の基準も甘くなっていき，結果として，大学全体のレベルが下がるはずである．しかし，そのような大学は，オーストラリアでの学位取得を最優先と考える留学生[7]との利害関係が見事に一致するため，急激に需要がなくなるということはないのである．オーストラリアにおけるこのような高等教育のあり方は，「知識と情報が製品となり得る」現代社会の一端を示しているといえよう．

と同時に，この問題の当事者である留学生にも，意識改革が望まれるのかもしれない．「高等教育の国際化」という一見，美しい名の下で，高額の学費を支払い，学位を取得することだけに満足するのか．それとも，長期に渡り，自らの身を置くことになる留学先の現状に対し，批判的な目を持ちながら，customer では終わらない方法を模索するのか．留学生一人ひとりの問題意識が今，問われているように思われる．

お わ り に

この論文では，オーストラリア政府がこれまで採択してきた移民政策と教育政策に批判的な分析を加えながら，この国における社会的，政治的，経済的変容がどのような形で，成人教育に影響を与えてきたのかという問題を議論した．この論文で成人教育の場として採り上げたのは，ACE, AMEP, ELICOS の 3 つであり，これらの教育分野における受講者の顔ぶれが変化していった要因を探った．

この論文の切り口として使用したのは，オーストラリア政府が標榜する「多文化主義」と「高等教育の国際化」という概念である．これらを用い，この国の成人教育の実態を検証しようと試みた最大の理由は，私自身が 2005 年から 2007 年にかけ，シドニーの大学院に留学したことにある．日本で生まれ，日本語を母語として育った私がオーストラリアという土地で，総じて心地よく暮らしたり，学業に専念したりすることができたのは，この国が外国人，あるいは，移民の存在に比較的寛容であり，また，留学生に対する大学側の学業支援も確立されていたからであった．このことを考えてみれば，オーストラリアという国には，確かに「多文化主義」や「高等教育の国際化」という概念がよく浸透しているといえる．そし

6）現在では，student services という名称が使用されている．V によると，心ある教員たちの抗議により，変更されたという．

7）学業成績の善し悪しに拘わらず，「英語圏で学位を取得した」という事実のみが帰国後に高く評価されることがある．また，オーストラリアの永住権を切望する留学生にとって，学位取得は，死活問題となっている．

て，私自身も，留学中に素晴らしい師や友に出会うなど，その恩恵に与った．しかし，その一方で，私の滞在中に，アングロ系とアラブ系の間で諍いが起き，アングロ系の他民族に対する嫌悪に触れ，悲しみを感じたことがあったし，大学側の留学生の扱いに対し，怒りを覚えたこともあった．その悲しみと怒りを突き詰めていったとき，この論文は生まれた．

「多文化主義」も「高等教育の国際化」も，魅惑的なことばである．しかし，この論文で指摘したように，「多文化主義」がオーストラリアにおける民族間不平等の永続化と再生産化に関与していることは否定できず，また，特に NESB の移民の多くが社会的・経済的階層構造の底辺を支える低賃金労働者としての境遇を永久に抜け出せないでいることも事実である．さらに，「高等教育の国際化」という表現は，海外からの留学生がオーストラリア経済を潤す単なる customer としての役割に終始してしまうかもしれない可能性を巧妙に覆い隠す．「多文化主義」も「高等教育の国際化」も，その裏に存在する社会的，政治的，経済的背景を含めた上で，批判的に議論する必要に迫られているのではなかろうか．

参考文献

Aardvark's English Forum, 2005, Viewed 25 October 2005,〈http : //www.english−forum.com/00/schools/orgs/neas.html〉

Baynham, M., 1991, *Literacy Teaching in TESOL and Adult Basic Education : Exploring Common Themes in Teacher Training and Staff Development,* Paper Presented at ATESOL Conference, Sydney, Cited in J. Hammond, R. Wickert, A. Burns, H. Joyce & A. Miller, 1992,"Issues and Themes from the Literature", *The Pedagogical Relations between Adult ESL and Adult Literacy,* Sydney : Language and Literacy Centre, University of Technology, Sydney, pp. 33−58

Baynham, M., 1995, *Literacy Practice,* London : Longman, Cited in A. Pennycook, 2001, *Critical Applied Linguistics : A Critical Introduction,* Mahwah, New Jersey : Lawrence Erlbaum

Benesch, S., 2001, *Critical English for Academic Purposes,* Mahwah, New Jersey : Lawrence Erlbaum, Cited in K. Hyland, 2004,"Why Genre?", *Genre and Second Language Writing,* Michigan : The University of Michigan Press, pp. 1−23

Burns, A., H. Joyce & S. Gollin, 1996, *I See What You Mean. Teaching Spoken Discourse in the Classroom : A Handbook for Teachers,* Sydney : NCELTR Macquarie University

Christie, F., 1989, *Language Education,* 2nd Ed., Oxford : Oxford University Press, Cited in S. Hyon, 1996,"Genre in Three Traditions : Implications for ESL", *TESOL QUARTERLY,* Vol. 30, No. 4, pp. 693−722

Christie, F., P. Freebody, P. Devlin, A. Luke, A. Martin, J. Threadgold & C. Walton, 1991, *Teaching English Literacy, Report of the Project of National Significance on the Preservice Preparation of Teachers for Teaching English Literacy,* Vol. 3, Darwin : Northern Territory University, Cited in J. Hammond, R. Wickert, A. Burns, H. Joyce & A. Miller, 1992,"Issues and Themes from the Literature", *The Pedagogical Relations between Adult ESL and Adult Literacy,* Sydney : Language and Literacy Centre, University of Technology, Sydney, pp. 33−58

Collins, J., 1991, *Migrant Hands in a Distant Land,* Sydney : Pluto Press

Cope, B. & M. Kalantzis, 1993,"Introduction : How a Genre Approach to Literacy Can Transform the Way Writing Is Taught", in B. Cope & M. Kalantzis（Eds.）, *The Powers of Literacy : A Genre Approach to Teaching Writing,* Bristol, PA : Falmer Press, pp. 1−21, Cited in S. Hyon, 1996,"Genre in Three Traditions : Implications for ESL", *TESOL QUARTERLY,* Vol. 30, No. 4, pp. 693−722

Cope, B. & M. Kalantzis（Eds.）, 2000, *Multiliteracies : Literacy Learning and the Design of Social Futures,* London : Routledge, Cited in A. Pennycook, 2001, *Critical Applied Linguistics : A Critical In-*

troduction, Mahwah, New Jersey : Lawrence Erlbaum

ELICOS Australia, 2008, What is ELICOS?, Viewed 8 July 2008,〈http : //www.elicos.com/about−elicos.php〉

Gee, J., 1996, *Social Linguistics and Literacies : Ideologies in Discourse,* London : Taylor & Francis, Cited in A. Pennycook, 2001, *Critical Applied Linguistics : A Critical Introduction,* Mahwah, New Jersey : Lawrence Erlbaum

Hammond, J., R. Wickert, A. Burns, H. Joyce & A. Miller, 1992,“Issues and Themes from the Literature”, *The Pedagogical Relations between Adult ESL and Adult Literacy,* Sydney : Language and Literacy Centre, University of Technology, Sydney, pp. 33−58

Holland, S, 1992, *English Literacy for Adults Project Report : A Emerging National Curriculum*, Canberra : DEET, Cited in J. Hammond, R. Wickert, A. Burns, H. Joyce & A. Miller, 1992,“Issues and Themes from the Literature”, *The Pedagogical Relations between Adult ESL and Adult Literacy, Sydney : Language and Literacy Centre, University of Technology,* Sydney, pp. 33−58

Hyland, K., 2004,“Why Genre?”, *Genre and Second Language Writing,* Michigan : The University of Michigan Press, pp. 1−23

Hyon, S., 1996,“Genre in Three Traditions : Implications for ESL”, *TESOL QUARTERLY,* Vol. 30, No. 4, pp. 693−722

Kightley, S., 1990, Reading & Resources to Guide Literacy Teaching, NSW, Sydney : AMEP, Cited in J. Hammond, R. Wickert, A. Burns, H. Joyce & A. Miller, 1992,“Issues and Themes from the Literature”, *The Pedagogical Relations between Adult ESL and Adult Literacy,* Sydney : Language and Literacy Centre, University of Technology, Sydney, pp. 33−58

Martin, J. R., 1985,“Language, Register and Genre”, in F. Christie（Ed.）, *Children Writing : Reader,* Geelong : Deakin University Press, pp. 21−29

New London Group, 1996,“A Pedagogy of Multiliteracies : Designing Social Futures”, *Harvard Educational Review,* 66, pp. 60−92, Cited in A. Pennycook, 2001, *Critical Applied Linguistics : A Critical Introduction,* Mahwah, New Jersey : Lawrence Erlbaum

Norton, B., 2000, *Identity and Language Learning : Gender, Ethnicity and Educational Change,* Harlow : Longman/Pearson

Pennycook, A., 2001, *Critical Applied Linguistics : A Critical Introduction,* Mahwah, New Jersey : Lawrence Erlbaum

PhillipsKPA and LifeLong Learning Associates, 2005, *Evaluation of the Education Services for Overseas Students*（*ESOS*）*Act 2000,* Viewed 25 October 2005,〈http : //www.dest.gov.au/sectors/international_education/publications_resources/profiles/evaluation_report.htm〉

Rustomji, L. & K. Dent, 1986, *Basic Education : A Growth Business,* Sydney : NSW TAFE, Cited in J. Hammond, R. Wickert, A. Burns, H. Joyce & A. Miller, 1992,“Issues and Themes from the Literature”, *The Pedagogical Relations between Adult ESL and Adult Literacy,* Sydney : Language and Literacy Centre, University of Technology, Sydney, pp. 33−58

関根政美，1997,「多文化主義国家オーストラリアの誕生とその現在」，西川長夫，渡辺公三，ガバン・マコーマック編,『多文化主義・多言語主義の現在　カナダ・オーストラリア・そして日本』，人文書院，pp. 147−164

Smart, D. & G. Ang, 1996,“The Internationalization of Australian Higher Education”, *International Higher Education,* Center for International Higher Education, Boston College, Viewed 25 October 2005,〈http : //www.bc.edu/bc_org/avp/soe/cihe/newsletter/News 06/text 2.html〉

Smyth, J., 1996,“Developing Socially Critical Educators”, in D. Boud & N. Miller（Eds.）, *Working with Experience : Animating Learning,* London : Routledge, pp. 41−57

The Australian International Education Foundation Council, 1997, *Submission to the Review of Higher Education Financing and Policy : Internationalization of Higher Education,* Viewed 25 October 2005,〈http : //www.dest.gov.au/archive/highered/hereview/submissions/submissions/A/AIEF.html〉

The Department of Immigration and Multicultural and Indigenous Affairs, 2002, *Fact Sheet 1 － Immigration － the Background,* Viewed 25 October 2005,〈http : //www.immi.gov.au/facts/01 backgd.htm〉

The Department of Immigration and Multicultural and Indigenous Affairs, 2003, *Fact Sheet 2 － Key Facts in Immigration,* Viewed 25 October 2005,〈http : //www.immi.gov.au/facts/02 key.htm〉

The Department of Immigration and Multicultural and Indigenous Affairs, 2005 a, *Fact Sheet 4 － Over Sixty Years of Post-war Migration,* Viewed 25 October 2005,〈http : //www.immi.gov.au/facts/04 fifty.htm〉

The Department of Immigration and Multicultural and Indigenous Affairs, 2005 b, *Reports － National AMEP Participants : By Country of Birth,* Viewed 25 October 2005,〈http : //www.immi.gov.au/amep/reports/reports/0304 cob.pdf〉

The Department of Immigration and Multicultural and Indigenous Affairs, 2005 c, *Reports － National AMEP Participants : By Top Ten Home Languages,* Viewed 25 October 2005,〈http : //www.immi.gov.au/amep/reports/reports/0304 lang.pdf〉

The New South Wales Board of Adult and Community Education, 2006, *ACE Numbers Count! 2005,* Viewed 08 July 2008,〈http : //www.ace.nsw.gov.au/images/files/stats/Publications/ACE％20 Numbers％20 Count 5％20 Final.pdf〉

The New South Wales Government Department of Education and Training, 2008, *History of Ace,* Viewed 8 July 2008,〈http : //www.ace.nsw.gov.au/〉

The Western Australian Technology and Industry Advisory Council, 2000,“Legislation Governing International Student Education and Training Providers”, *Export of Western Australian Education & Training : Constraints & Opportunities,* Viewed 08 July 2008,〈http : //www.tiac.wa.gov.au/reports/exportedu/report.html〉

鳥飼玖美子，2006,「持続可能な未来へのコミュニケーション教育」，大津由紀雄編，『日本の英語教育に必要なこと』，慶應義塾大学出版会，pp. 135−151

Vasta, E., 1996,“Dialectics of Domination : Racism and Multiculturalism”, in E. Vasta & S. Castles（Eds.）, *The Teeth Are Smiling,* Sydney : Allen and Unwin, pp. 46−72